

「平成30年度安全大会」を開催 事故災害ゼロ件達成

出雲テック(大阪)



本城社長

6日、大阪市北区のコートヤードバイマリオット新大阪ステーションで「平成30年度安全大会」を開催した。ファブや現場関係者、鋼材特約店副資材メーカーなどを含む約40名が参加した。冒頭、本城社長は「足元の仕事は非常に忙しく、好調な環境だ。しかし、工程のずれや納期のトラブルなどが生まれやすく、出雲テックでは連絡調整に注力して、円滑な事が行われるよう取り組んでいる」と概況を述べ、続いて「昨年度は事故災害ゼロ件を達成することができ、皆様に感謝を申し上げたい。事故災害

鉄骨構造物の設計・施工などを主業務とする出雲テック(大阪市北区芝田2-17、本城俊成社長)は



ファブや現場関係者ら約40名が参加

新都市ハウジング協会

「30年度調査研究発表会」を開催

CFT造普及活動成果などを報告

新都市ハウジング協会(略称・ANUHT、会長 河野晴彦・大成建設専務執行役員)は6日、東京・西新宿の大成建設大会議室で「平成30年度調査研究発表会」を開いた。昨年度までの活動成果報告、特別講

演、CFT構造賞の選考表 彰報告などを行った。開会にあたり白井清広専務理事は「活動成果を広く公表し、共有していただくための重要な会と考えている。今後とも住宅建築技術の高度化、技術水準向上のための活動を行っていく」とあいさつした。

業界関連ではCFT造普及委員会の依田博基委員長(久米設計)が昨年度の活動として、施工管理技術者講習会の開催、CFT造技術指針の改訂、施工DVDの改訂などを報告した。また、昨年度作成したCFT構造についての紹介ビデオを

休憩時間に上映した。

このほか、都市居住研究設備システム、建築基礎、住棟インフラ整備など各分野の報告が行われた。特別講演は建築研究所の緑川光正理事長が「地震防災を改めてふりかえる」と題して▽地震被害と法令等の変遷▽近い将来発生が懸念される巨大地震▽地震防災の温故知新——などについて講演した。

適正加工賃への影響を懸念

「次世代へ残すための事業を」

全国ビルトH工業会・西日本支部が総会

全国ビルトH工業会・西日本支部(支部長 岡田直矢・徳機製作所社長、会員数15社)は5日、福岡市内のTKP会議室で今年度総会を開催し、今年度事業計画、予算など全議案を承認した。

岡田支部長は「ビルトH

形鋼の需要量が旺盛ななか、母材や溶接資材などの値上がりから適正加工賃への影

響が懸念される。業界として、取り組むべき課題は多いが、次世代へ残すためのいろいろな事業に取り組んでいきたい」とあいさつした。

今年度の事業活動では①溶接H形鋼製作工場認定制度のさらなる認知および広報活動②運営、技術、市況、広報ほか委員会活動の推進③品質保証体制の確立④サブマージアーク



総会のもよう

溶接50度開先標準化に向けた活動⑤HPの充実——などを重点的に実施していく。

また、昨年度作成したCFT構造についての紹介ビデオを



昨年度までの活動成果を報告

